

仕様書

スタートアップ支援部

1. 件名

NEDO プロジェクトを核とした人材育成、産学連携等の総合的展開／研究開発型スタートアップ支援人材養成特別講座の運営及びその在り方等の検討に係る調査業務

2. 目的

NEDO は、スタートアップ・エコシステムを下支えするための広い知見、高い専門性を有し、研究開発型スタートアップの成長を伴走支援できる中核的な「支援人材」を育成する研究開発型スタートアップ支援人材養成特別講座「NEDO Startup Supporters Academy」（以下、「SSA」とする）を 2017 年から実施している。

本業務は、スタートアップの創出や成長を後押しし、日本の産業競争力の向上に貢献するために、スタートアップ・エコシステムの底上げ・活性化に寄与する人材育成を目指し、SSA の講座の運営や SSA 修了生の活動支援、「支援人材」に関する調査等を行うものである。

3. 業務内容

本業務について大別すると、(1)講座の企画、(2)講座の実施、(3)講座の効果等に係る分析、今後の在り方等の検討、(4)講座の魅力等の発信、修了生コミュニティ等の形成促進の 4 項目となり、それぞれの内容について、以下の点に留意して実施するものとする。

(1) 講座の企画

- ・企画の対象範囲としては、2025 年 11 月以降実施予定の講座（第 10 期）から 2027 年 11 月以降実施予定の講座（第 14 期）とすること。
- ・企画案については、2024 年度に実施した講座（第 7 期、第 8 期）、2025 年度講座（第 9 期）の内容をベースとして作成し、NEDO と協議の上で確定すること。（表 1 「実施する講座内容」）
- ・また、講座（第 11 期）以降については、その直前までに実施していた講座の内容に係る効果・分析の結果等を踏まえ、企画案を作成すること。
- ・講座（第 14 期）については、期間中の企画・運営の成果を集約、企画案を作成した後、同講座を運営する次期の運営管理法人が円滑にその運営を行うことが可能となるよう、適切に引継ぎを行うこと。
- ・講座の形態は、「支援人材」同士のコミュニケーションを第一とする本講座の趣旨等に鑑み、対面を基本とするが、必要に応じてオンラインによる開催等を検討し、費用の範囲内で最大の効果が得られるよう設定すること。
- ・講座の内容は、講義、グループワーク、グループディスカッション等といった形式を組み合わせ

せ、受講生への効果の最大化を図るとともに、その満足度の向上を狙ったものとする。

- ・ On the Job Training（以下、「OJT」とする）研修において、NEDO カタライザーによる事業者メンタリングへの同席を行っているが、その回数に限りがあり、実際のメンタリング内容には偏りがあることから、受講生それぞれが実践的なメンタリングへの理解力の向上に資する教材（メンタリングの行い方等を解説した動画等：60 分程度）を作成すること。

表 1 実施する講座内容

研修区分	内容	形式	研修時間
(a) 開講研修 開催場所： 神奈川県 川崎市 K-NIC（予定）	・ スタートアップ支援者として必要とされる知識やスキル、マインドセット ・ メンタリングの心構え	講義 ワークショップ ディスカッション (15 コマ、講師 21 名)	20 時間程度 (3 日間)
(b) OJT 研修 開催場所： オンライン他	・ 座学で得た知識の定着、現場対応力の養成、ネットワーク構築の実践トレーニングの機会を狙った OJT ・ NEDO カタライザーによるスタートアップに対するメンタリングへの同席（※）	オンライン研修 イベント参加 他	1～3 時間 (1～3 回)
(c) 地域エコシステム研修 開催場所：地域の エコシステム拠点	・ スタートアップ・エコシステム拠点等の現場理解 ・ 地域の特徴的なスタートアップ支援機関による支援政策の紹介 ・ 地域発スタートアップの登壇	講義 パネルディスカッション 施設見学 他 (7 コマ、講師 7 名)	7～20 時間 (1～3 日間)
(d) 合宿研修 開催場所：関東近 郊を想定	・ 起業体験を通じた様々な立場での役割、意味の問い直し ・ スタートアップ支援者としての強靱なマインドセットの養成	講義 ディスカッション、 グループワーク (7 コマ、講師 7 名)	7～20 時間 (1～3 日間) 合宿形式
(e) 修了研修 開催場所： 神奈川県 川崎市 K-NIC（予定）	・ スタートアップ支援者として必要とされる知識やスキル、マインドセット ・ カタライザーによるスタートアップの模擬メンタリング	講義 ワークショップ パネルディスカッション (7 コマ、講師 10 名)	7～14 時間 (2 日間)

※「NEDO Entrepreneurs Program (NEP) 事業躍進コース」にて実施している、NEDO カタライザーによるスタートアップに対するメンタリングに、本講座の受講生が同席（オンライン視聴等）する形式で行うもの（なお、受託事業者は当該メンタリングへは同席しない想定。）

(2) 講座の運営

- ・ 運営の対象範囲としては、2025 年 11 月～2026 年 3 月実施予定の講座（第 10 期）から 2027 年 5 月～2027 年 9 月頃実施予定の講座（第 13 期）であり、事務局として同講座を運営すること。
- ・ 基本的に、「(1) 講座の企画」において立案した企画案に基づき、各期の運営を行うこととするが、講座（第 10 期）は、前運営管理法人が作成した企画案を主として運営を行うこととする。
- ・ 運営にあたっては、本講座の修了生への対応や NEDO との調整を含め、適切なスケジュール・タスク管理のもとで準備を行い、事務局として効果的・効率的、また円滑に運営を行うこと。

（具体的な業務内容は、参考 1 「2024 年度運営業務内容」のとおり。）

(3) 講座の効果等に係る分析、今後の在り方等の検討

本講座の内容については、常にブラッシュアップし、より高度化を目指すものとする。そのため、「(2) 講座の運営」で実施した内容については、その都度分析し考察を行うものとする。

- ・ 講座の単元毎に、当該内容・意図・効果等を整理した上で、受講生、講師（スタートアップを含む）等を対象に、改善要望や意見、感想、満足度等の情報をアンケートやヒアリング等により収集すること。
- ・ 特に、受講生からは研修前後のネットワーキングについての感想や要望を、講師からは受講生がその習得を期待する知見や達成度、今後の期待等についてそれぞれ調査し、その結果を踏まえ考察を行うこと。
- ・ また、過去の SSA 運営事業報告書等を参考に、SSA のプログラムの目的・内容について、「SSA プログラム俯瞰表」を見直し最新版として整理すること。また、その俯瞰表と呼応する形で、研究シーズ・スタートアップのフェーズや受講生の経験値・レベル等を縦横軸に取る等工夫したマッピング等も作成し、SSA のターゲット人材やポジショニング等を整理すること。
- ・ なお、本分析・考察に伴って得られた知見は、「(1) 講座の企画」へアジャイルに反映させ、講座の効果的な実施へ繋げていくこと。

(4) 修了生コミュニティ等の形成促進、講座の魅力等の発信等

- ・ SSA 修了生のネットワークの強化や、活躍の場の拡大を図ることを目的として、修了生の活動状況に関するアンケート等を各年度 1 回は実施し、修了生の具体的な活動状況やその強みを調査すること。（アンケートの設問項目は以下のとおり）
 - ① 現在の属性、職務
 - ② SSA での学びや経験がスタートアップ支援業務へどのように活用されているか
 - ③ 研修受講前と受講後の知識量や支援実績の変化
 - ④ スタートアップや「支援人材」間でのネットワークの形成状況
 - ⑤ SSA への協力の意思確認 他
- ・ 上記の調査結果については、分析・考察を行い、講座の企画への反映と共に、SSA 修了生も参加しやすいイベント等について企画すること。
- ・ SSA 修了生の人的ネットワークの強化や活躍の場の拡大、各人のスタートアップ支援に係る最新情報のアップデート等を目的として、SSA 修了生に対して以下のイベント等を企画・実施すること。なお、開催費用等の抑制も含め、効率的・効果的な内容とすること。

<SSA 修了生コミュニティを活性化させるための定期イベント>

定期的なイベント等を企画し実施することで、継続的に、受講生と修了生、修了生同士の交流を促すこと。具体的なイベントとしては、開講研修や修了研修時に、スタートアップに関連する最新動向の講義を修了生参加型で開催すること等だが、他に修了生の交流の活性化に資する方策があれば、NEDO および SSA 修了生の有志等と協議の上で提案・実施すること。

＜SSA 第 10 期達成記念イベント＞

講座（第 10 期）の終了後を開催時期とし、修了生の知識のアップデート、ネットワークの強化を目的とするイベントを開催すること。イベントでは、スタートアップに関連する最新動向や先進的取り組みなどの講演、修了生の活躍やキャリアパスの報告、修了生・講師等関係者との交流機会を企画・実施すること。なお、上記の定期開催の修了生イベントに参加しにくい修了生に参加を促すため、全修了生の意向を極力汲んだ開催方法を検討すること。

- ・ SSA の取組・成果等（修了生の活動状況の記事、事業概念図等の作成等を含む）を効果的に発信するためのコンテンツ等（HTML、画像、テキスト等）を作成すること。なお、作成したコンテンツ等は、NEDO のホームページ上で公開できるように、NEDO のサーバーセキュリティポリシーに基づき、NEDO のデザイン言語等を踏襲したフォーマットで作成すること。作成にあたっては、コンテンツ内容、作成時期等を NEDO と協議の上で決定すること。
- ・ NEDO が、SSA の事業内容や成果を社会に発信するイベント等を開催するにあたり、会場の確保や登壇者との調整等の実施支援業務を担うこと。
- ・ NEDO が行うスタートアップ及び「支援人材」等に対する支援業務のサポートとして、有識者等への謝金等の支払いやスケジュール調整などの支援を行うこと。（具体的には、NEDO が連携協定を締結している大学に対して、NEDO カタライザーを派遣しメンタリング等を実施している。NEDO に代わり、メンタリングに係る謝金等の支払い（必要に応じて NEDO カタライザーが作成する報告書回収・確認等も含む）を実施すること。謝金額は、NEDO の内規に準拠し、年間 10 回程度の実施を想定。）

4. 期間

NEDO が指定する日（2025 年度） から 2027 年 9 月 30 日まで

5. 報告書の提出

本業務で実施した「3. 業務内容」の結果等について、具体的なアクションや様々な工夫に対して、効果・寄与（効果がなかった場合を含む）を整理し情報を集約すると共に、事業終了時点で自己分析し、提案者が継続的に取り組むにあたって構想する将来像も含めて報告書（和文）の形にまとめること。

●中間報告書

提出期限：2026 年 3 月 31 日、2027 年 3 月 31 日

提出方法：提出時点における本業務の途中結果を、最終報告書の内容を見据えた形式で取りまとめ、中間報告書（ワード形式もしくはパワーポイント形式）として、当機構担当者まで提出。

●最終報告書

提出期限：2027 年 9 月 30 日（契約期間を延長した場合は NEDO の指示に従うこと）

提出方法：業務内容を網羅した上で、成果報告書のフォーマットに従い作成し、最終報告書（ワード形式もしくはパワーポイント形式）として、当機構担当者まで提出。

※上記報告書以外に、中間年報と成果報告書の電子ファイル一式を、それぞれ所定の期日までに NEDO プロジェクトマネジメントシステムで提出すること。詳細は、「成果報告書・中間年報の電子ファイル提出の手引き」を参照すること。

<https://www.nedo.go.jp/itaku-gyomu/manual.html>

※調査により得られた資料およびエビデンスを示す参考資料は、別途電子媒体で提出すること。本業務において収集した各種情報・データ等は全て NEDO に帰属するものとし、本業務の終了後も、本事業や後継事業、関連事業において活用する場合がある。

6. 報告会等の開催

委託期間中又は委託期間終了後に NEDO が実施する報告会（非公開予定）等において報告すること。

7. その他

本仕様書に定める事項については、随時 NEDO と調整の上実施すること。また、関連する NEDO 事業等との連携・活用等を視野に入れた上で、本仕様書に定めなき事項については、NEDO と実施者が協議の上で決定すること。

(参考 1) 2024 年度の運営業務

項目	業務内容
受講生 公募支援	・ 2 次選考（面談審査）：面談日程の調整、受講生への連絡等
受講生対応	・ 研修プログラム表の作成、メール送付 ・ 研修当日の受付、出席確認等 ・ 欠席者対応（研修資料の送付、研修動画およびレポート課題の案内、受付等） ・ 受講アンケートの作成、とりまとめ ・ 月次課題（OJT 学習内容や各自の支援活動等に関するレポート）等のとりまとめ ・ 受講生の支援者レベル確認、取りまとめ
講師対応	・ 謝金、交通費等の支払準備、支払（原則として、講師は有識者登録の上、謝金の額は当機構の内規で定める額に従うこと） ・ 講演日時調整等 ・ 講演資料の刈取、印刷等 ・ 研修当日の講師受付、案内、印刷資料の配布等
会場設営・ 運営等	・ 会場下見、関係者打合せ、進行表の作成等 ・ 研修会場手配（10 万円程度を想定） ・ 合宿に係る、講師・受講生の宿泊、地元企業の見学会、ナイトディスカッションの手配（100 万円程度を想定、ただし受講生の宿泊費は除く） ・ 会場設営（机・椅子、PC、映像、音響、録画機器等）、片付け、原状復帰等 ・ 研修当日の資料配布、スライド投影、音響、照明等の管理・補助、研修のタイムキープ等 ・ 研修の動画収録および動画納品等（各研修について、講演の様子および音声を収録し、各研修の終了日から 1 週間以内を目安に動画ファイルを NEDO に納品すると共に、研修の欠席者がオンライン視聴できるように動画を限定公開すること。ファイル形式等の詳細は NEDO と協議のうえで決定すること。）

(参考 2) 2024 年度第 1 回（7 期）プログラム（敬称略、当時の所属・役職を示す。また講義タイトルは、講師が提示したものを示す。）

研修区分	講義タイトル	講師	時間
(a) 開講研修 (15 講義)	・ スタートアップ・エコシステムの様相と課題	東京大学教授 各務茂夫	75 分
	・ スタートアップの資金調達と資本政策（概論）	EDiX 江戸川泰路	70 分
	・ ベンチャーエコシステムデザイン戦略	日本総合研究所 東 博暢	60 分
	・ イノベーションの思考論	早稲田大学教授 清水 洋	80 分
	・ SSA 修了生の活躍と展望		
	・ 研究開発型スタートアップの事業計画分析概論	みらい創造機構 高橋遼平	150 分
	・ 経済産業省におけるスタートアップ関連政策について ―研究成果を活用した事業創造の手法としてのカーブアウトを中心に―	経済産業省課長 野澤泰志	60 分

	・日系スタートアップが海外スタートアップ・エコシステムを活用してスケールアップするには？ ・DeepTech Startup 外部資金公募攻略 ・テクノロジースタートアップの知財戦略・マネジメント ・政府系支援機関の制度を活用しよう！～Plus one 相談窓口と Plus 参加機関のリアル～ ・オープンイノベーションと技術系を中心とした事業創造 ・アントレプレナーシップ支援論 ・ディープテックスタートアップがシード期を乗り越えるためのピッチの描き方 ・研究開発型ベンチャーのメンタリング(概論)	日本貿易振興機構 (JETRO) 次長 樽谷範哉 60 分 NEDO 塚越常雄 60 分 内田・鮫島法律事務所 弁護士 鮫島正洋 60 分 日本政策金融公庫 三浦公平 60 分 NEDO 馬場大輔・田中奏希 ゼロワンブースター 80 分 取締役 合田 ジョージ カピオン 代表取締役 曾我 弘 60 分 インディージャパン 代表取締役 津嶋辰郎 90 分 S-factory 代表 尾崎典明 70 分
(c) 地域エコシステム研修 (7 講義) (浜松にて実施)	・浜松市におけるスタートアップ・エコシステム施策の取り組み ・静岡大学発のスタートアップ創出について ・FUSE のスタートアップ支援と浜松版スタートアップ・エコシステムについて ・浜松地域の DeepTech スタートアップとそのエコシステム ・パネルディスカッション ・科学技術ビジネスプロデュース論	浜松市 部長 川路勝也 40 分 静岡大学 部門長 鈴木俊充 20 分 浜松いわた信用金庫 副監査役 上野直人 20 分 リンクウィズ 吹野 豪 30 分 ゼロワン 丸山隆史 リバネス CEO 丸 幸弘 90 分
(d) 合宿研修 (7 講義)	・鶴岡市の政策紹介 ・鶴岡サイエンスパーク、鶴岡発ベンチャー企業の紹介 ・起業家講演 (4 社) SSA 合宿についての想い ラボツアー、ナイトディスカッション 鶴岡市の伝統文化について 特別講座～鶴岡の起業家精神を学ぶ～	慶應義塾大学 名誉教授 富田 勝 60 分 メタジェン取締役 村上慎之介 30 分 XLOCAL 取締役 藤原俊介 30 分 インセムズテクノロジーズ 代表取締役 平山明由 30 分 Spiber 富樫 修 20 分
(e) 修了研修 (8 講義)	・異能のかけ算—新規事業創出の方法とチーム論— ・スタートアップ・プランディング ・オープンイノベーション実践に向けた TIPS ・デザイン思考の先を行くもの—未来創造のため米国最優先デザインメソッド—	Sun Asterisk 増渕健二 90 分 テングット 代表取締役 名引佑季 60 分 Eiicon 香川 脩 60 分 SEN 代表取締役 各務太郎 80 分 120 分

	・メンタリング支援の実践 ・スタートアップのビジネスのグローバル化支援のために知っておくべき事 ・起業家&支援者に必要なリベラルアーツと日本のスタートアップ・エコシステムにおける課題	S-factory 代表 尾崎典明 Plug and Play CMO 藤本あゆみ アカデミック・ギャングスター 代表取締役 中川卓也	90 分 140 分
--	---	---	---------------

(参考 3) 2024 年度第 2 回 (8 期) プログラム (敬称略、当時の所属・役職を示す)

研修区分	講義タイトル	講師	時間
(a) 開講研修 (11 講義)	・ スタートアップ・エコシステムの様相と課題	東京大学教授 各務茂夫	75 分
	・ 科学技術ビジネスプロデュース論	リバネス CEO 丸 幸弘	90 分
	・ イノベーションの思考論	早稲田大学教授 清水 洋	80 分
	・ ディープテックスタートアップがシード期を乗り越えるためのピッチの描き方	インディージャパン 代表取締役 津嶋辰郎	90 分
	・ オープンイノベーションと技術系を中心とした事業創造	ゼロワンブースター 取締役 合田 ジョージ	90 分
	・ 異能の掛け算 - 新規事業創出の方法論とチーム論 -	Sun Asterisk 増渕健二	80 分
	・ 経済産業省におけるスタートアップ関連政策について	経済産業省 課長補佐 長谷川寛晃	60 分
	・ DeepTech Startup 外部資金公募攻略	プレアデスイノベーションコンサルティング 塚越常雄	60 分
	・ 研究開発型スタートアップのメンタリング (概論)	S-factory 代表 尾崎典明	70 分
	・ 公的創出支援の制度活用～Plus one 相談窓口の活用事例～	中小機構 課長代理 丸古雅典	70 分
(c) 地域エコシステム研修 (6 講義) (福岡にて実施)	・ 研究開発型スタートアップの事業計画分析概論	みらい創造機構 高橋遼平	150 分
	・ 福岡市のスタートアップ施策について	福岡市 課長 倉光洋規	45 分
	・ 九州大学における産学連携の事例と、エコシステム構築に向けた取り組みの紹介	九州大学 教授 大西晋嗣	45 分
	・ 研究開発型スタートアップ支援におけるアントレプレナーシップ教育と地域エコシステム形成の取り組み	九州大学 教授 高田 仁	45 分
	・ FiaS 周辺見学		
	・ 地域のスタートアップの講義 (2 件)	KAICO 代表取締役 大和建太 F. MED CEO 下村景太	40 分 40 分

(d) 合宿研修 (6 講義)	・ ディープテック・スタートアップの資金調達と資本政策（概論）	EDiX 江戸川泰路	80 分
	・ベンチャーエコシステムデザイン戦略	日本総合研究所 東 博暢	60 分
	・ VC が語る知財戦略	グローバルブレイン 廣田翔平	120 分
	・ 実務に活かせる知財重要ナレッジ	株ファストトラックイニシアティブアソシエイト 深津幸紀	120 分
	・ 起業家&支援者に必要なリベラルアーツと日本のスタートアップエコシステムにおける課題	内田・鮫島法律事務所 鮫島正洋 丸山真幸	
	・ アントレクレスト（ケースワーク）	アカデミック・ギャングスター 代表取締役 中川卓也 スタートアップエコシステム協会 藤本あゆみ Armory 福永祐作	180 分
(e) 修了研修 (6 講義)	・ スタートアップのビジネスのグローバル化支援のために知っておくべき事	スタートアップエコシステム協会 藤本あゆみ	80 分
	・ デザイン思考の先をゆくものー未来創造の為に米国最優先デザインメソッドー	SEN 代表取締役 各務太郎	90 分
	・ スタートアップ・ブランディング	テングット 代表取締役 名引佑季	90 分
	・ 経済産業省におけるディープテック・スタートアップ関連政策について 研究開発型スタートアップで活躍する女性起業家・キャピタリストによるパネルディスカッション	法律事務所 ZeLo 南 知果 Nocnum CEO 大森美紀 IZANA 代表取締役 大前緩奈 幸星 星 エリ	70 分
	・ メンタリング支援の実践	S-factory 代表 尾崎典明	140 分